

投球による尺骨鉤状結節裂離の治療成績

愛知医科大学医学部 整形外科

梶田幸宏

岩堀裕介

斉藤 豊

佐藤啓二

【目的】

投球による尺骨鉤状結節裂離の治療成績を報告する。

【対象と方法】

対象は7症例7肘，全例男性，スポーツ種目は全例野球，初診時年齢は平均15.4歳であった。検討項目は尺骨神経障害合併の有無，骨癒合までの期間，スポーツ復帰状況，治療前後のJOAスポーツスコアとした。

【結果】

7例中4例に尺骨神経障害の合併を認め，保存療法により平均7.5週で全例骨癒合が得られた。7例中6例は平均3.3ヵ月で野球復帰し，JOAスポーツスコアは平均56.8点から平均98.3点となった。7例中1例は尺骨神経障害の症状が残存し肘部管解放術を行うもモチベーションの低下により野球を中止した。

【結語】

本疾患の病態は上腕骨内上顆骨端線閉鎖直後から数年以内に発生しており，この時期は鉤状結節が解剖学的に脆弱になるためと考えられた。保存療法により全例骨癒合し野球に復帰することができた。